

日本地すべり学会新潟支部 支部総会・シンポジウム
 「新潟県中越地震と地すべりーその5 順調に進む被災地の地すべり対策ー」開催報告

新潟支部

去る5月18日、新潟市内のユニゾンプラザにおいて、支部総会・シンポジウムが開催されました。本年度のシンポジウムは、中越地震被災地の安心・安全な地域再生から「被災地の地すべり対策」をテーマとして開催され、山形大学八木浩司教授による特別講演の他、支部会員による5件の発表が行われました。

開催にあたり早川支部長より、「日本でも有数の地すべり地帯を襲った新潟中越地震は、甚大な損害を地域に与えた。現在、各方面の尽力によって着々と復興が進んでいることは喜ばしいかぎりであり、当日本地すべり学会新潟支部会員諸子もその一翼を担っている事を誇りとする。今後この経験を奇禍として、地すべり活動に対する新しい知見を、この新潟の地から発信できるよう各位の努力を望みたい。」との力強い挨拶がありました。

発表では、震災発生直後の応急復旧から、地域のニーズに応じた復旧方法の模索・決定の過程が、我々が日常目にする報告書とは違った視点から報告されるなど、今後参考とすべきものがありました。また、全国的に有名となった妙見地区においては、復旧方法の決定過程に加えて、当初予想だにされていなかった「磨き砂」採掘跡の坑道の存在が報告され、地域産業と地すべり活動の関係が指摘されるなど、興味深いものがありました。

シンポジウム終了後は、会場を同市ウエルシティに遷し、復旧工事に携わった関係者を中心に、今回の経験を今後如何に地すべり活動の解明・対策に反映させるか等の話題に意見交換が行われ、充実した時間を共有してPM8:00過ぎに散会しました。

(文責 新潟支部幹事 川太誠)

日本地すべり学会関東支部活動報告

関東支部

平成19年6月1日、東京大学工学部武田先端知ホールにおいて、平成19年度関東支部総会とシンポジウムが開催された。

■日本地すべり学会関東支部総会

第2回目となる関東支部総会は、丸井英明日本地すべり学会会長に御挨拶を頂戴した後、平成18年度事業報告、同決算の承認、平成19年度事業計画、同事業予算、同役員名簿等の各議案が承認され、無事終了した。なお、本年度新たに関東支部副支部長として独立行政法人防災科学技術研究所防災システム研究センターの井口隆氏が選任された。

■平成19年度関東支部シンポジウム

総会に引き続き、平成19年度関東支部シンポジウムとして「都市域のランドスライド」をテーマに、東京大学東畑先生、東京電機大学安田先生に下記の御講演を頂いた。

- (1) 「市民レベルの斜面崩壊警報システム」 東畑郁生 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授
- (2) 「都市域における既設造成盛土宅地の地震時安定性」 安田進 東京電機大学理工学部建設環境工学科教授

① 東畑郁生先生の講演は、安全・安心への国民の希求が高まる一方、それに應える行政の財政力は低下しており、防災の仕組みの中にも効率、コスト・パフォーマンスの考え方を取り入れ、自主防災の考え方が重要となると指摘された。すなわち、今後、斜面対策を全て公に任せることは困難であり住民の自主防災が重要となるが、費用的にも限界があるので個人の防災努力に対して公が認知評価し、資金援助して最大限の効果をあげる防災対策が重要となる。そのため、個人が自己資金を投入してでも行うであろう防災対策のひとつとして、豪雨時の斜面崩壊から個人の命を守るための警戒態勢と避難を確実にできる安価なシステムが考えられる。具体的には、斜面崩壊の前兆としての変位速度を利用する警報避難システムが現実的であり、個人レベルの出費も考えると一基3万円以下が望まれる。これらの機器開発目標に対して実施されている様々な条件下で崩壊に至る変位速度等の実験結果や機器の有効性、低廉化、無線等のシステム化、管理基準値等の研究成果を説明された。また、本技術は公的機関からの雨量情報等と組み合わせることにより逃げ遅れ等がない合理的な運用も可能になること、更には海外での活用も視野に入れるべ

きであり、防災支援だけにと留まらず我が国の防災技術が輸出産業にもなり成りえることも指摘された。

- ② 安田進先生の講演は近年話題となっている造成盛土宅地の地震時の安定性について、多くの被災実態事例からその原因と調査方法、対策方法、今後の課題等を説明された。十勝沖地震、宮城県沖地震、釧路沖地震等の事例からは、盛り土や基礎地盤付近がN値10以下で、かつ地下水位が高いこと等が共通要因であることなどから、空中写真等を利用したスクリーニング、次に現地において地形、地盤、盛土条件、被災状況を考慮することによりある程度危険な盛土が絞り込めることを説明された。また具体的な地盤調査法、特に地下水位の調査留意点、土質試験値の適用や設計に用いる強度等についても言及された。特に地震時の過剰間隙水圧の扱いについては、安定計算上の加速度との併用についての問題、液状化時は盛土全体の変形性も問題となること等を指摘された。今後の課題としては、盛土材料や地下水位分布の合理的な把握方法、地震時のような繰り返し載荷時の動的なせん断強度の算定、地震時過剰間隙水圧の求め方、不飽和部の地震時過剰間隙水圧の挙動等を挙げられた。都市域の盛土災害は人命にも大きく影響することが多く、危険な宅地盛土を抽出し、合理的な対策工を実施することが重要である。

(文責 小野田 敏)

■関東支部 平成19年度 行事予定

開催日	行事予定
4月24日、25日(終了)	地すべり災害技術に関する日中シンポジウムおよび現地見学会 (埼玉県さいたま市、新潟県長岡市、群馬県嬬恋村)
6月1日(終了)	関東支部総会及びシンポジウム「都市域のランドスライド」 (東京都文京区)
9月~11月頃	平成19年度 関東支部地すべり現地検討会 (場所未定)
	以上